

復興支援大学等奨学生 卒業報告

～2021 年 3 月、5 期生 4 人が卒業しました～

地元宮城県の小学校教師に、学ぶ楽しさ伝えたい

宮城教育大学教育学部を卒業した長谷部彩佳さん

私はこの4年間で非常に多くの経験や体験を通じて学びを深めることができたと言っている。振り返るとすべてのことが充実したものであり、その経験の一つ一つが学びになり、今の自分の考え方や人格に影響していると思う。

その中でも特に学びを感じた経験として宮城教育大学の311ゼミナールでの活動（写真＝左から3人目）がある。1年目は主に自分の出身である門脇小学校での避難行動の検証などを行い、2年目は福島原発被災について調べ、実際に現地に視察へ行き、語り部の方のお話を聴いたり地元の学



校の放射線教育に関する取り組みを取材してまとめたりする活動などを行った。2年間の活動はすべて自分の学びたい、知りたいという主体的な思いが原動力となっており、学業や教育実習、アルバイトなどとの両立が難しく大変な面もあったが、なんとか乗り

越えて自分が満足いくように結果を残し、卒業することができた。しかし、最後までやり遂げることは自分一人の力では不可能だったと思う。周囲の人達の支えがあったからこそ、自分のやりたいという気持ちを叶えることができたと思う。ゼミの先生や同じ思いを持った仲間がいて、ともに考えを深め合う時間を作ることができたから最後まで活動を続けることができた。誰かと学び合えたことで、大学という場で学ぶことができてよかったと感じた。

この活動を通して、学びたいという気持ちをもってそれに突き進むことがこれほどに楽しいことであると気づくことができて本当に嬉しかった。次はこの喜びを宮城県の小学校の先生として、子供達に気づかせてあげたいと思う。子供の声に耳を傾け、その思いが叶う方へと手を差し伸べることができる教員を目指して尽力したい。同時に、自分の学びたい思いや知りたいという気持ちを大切に、学ぶ場を大学から社会へと広げてこれからも学び続けたいと思う。

東日本大震災から10年が経ち、当事者である私の中でもあの出来事が風化しつつある。忘れてしま

幼稚園教諭になる夢を地元で実現

尚絅学院大学総合人間科学部を卒業した女子学生

コロナ禍の中ではありましたが、本大学では感染対策を徹底し、3月17日に卒業式を行いました。4年生はほとんどオンライン授業だった為、大学に通うことも少なく、友人たちとも会えない日々が続いていました。卒業式が近づくにつれ、寂しい気持ちが募り、私は友人たちとビデオ通話をしながら、数々の思い出を語り合っていました。無事に卒業式を迎えることができ、久しぶりに友人たちや先生と会えて本当に嬉しかったです。卒業式を終えて、私は改めて大学生活が長いようで、あっという間だったと実感しました。



う間だったと実感しました。

大学生活を振り返ると、たくさんの出会いや学びがあり、充実した4年間を過ごすことができたと思えます。特に、私は幼児教育の道に進みたいという夢を持ち、大学に入学した為、専門教育及び

専門分野の勉強ができることに日々喜びを感じ、講義を受けていました。また、大学で共通の夢を持つ友人たちと出会えたことにより、互いに切磋琢磨し合い、より一層勉学に励むことができました。さらに、私は実習やゼミ活動等の経験を通し、まずは実践してみるという行動力が身に付いたと感じています。今後とも失敗を恐れず、何事にも積極的に取り組む姿勢を心がけていきたいと思えます。これまでの学びや経験を基に、これからも一段と自分自身が成長できるよう励んで参ります。

そして、大学4年間の学びを得て、私は幼稚園教諭第一種免許状と保育士資格を取得しました。4月からは、『学校法人とよま平和学園 登米幼稚園』にて、私の幼い頃からの夢であった幼稚園教諭として働かせていただくこととなりました。現在、既に研修を終え、課題や今後に向けて努力を続けています。研修期間で子どもたちとも打ち解けることができ、私は1日も早く子どもたちと過ごす日を楽しみにしています。先生方もとても温かく迎えてくださり、先生方のご期待に応えることができるよう日々精進して参りたいと存じます。

-----*-----*-----*

私のゼミは、伝統や昔ながらの遊びをどのように子どもたちに伝えていくかといった、子



どもたちへの伝承をテーマにしております。内容としては、古くから伝承され続けている西馬音内盆踊りについて実際に踊って学ぶ研究、故郷の民俗文化財についての研究論文となっています。

国の重要無形民俗文化財に指定された西馬音内盆踊りについての研究の時の写真です。私たちは現地（秋田県）に行って、現地の方々と踊りを行う予定でしたが、コロナによって中止となってしまいました。さらに、卒業研究発表会で踊りを披露する予定でしたが、こちらもオンラインでの実施となり、披露する場がありませんでした。

しかし、教授が最善策を考えてくださり、発表会前に録画して映像を流すという形をとりました。写真（本人中央）は初めてゼミの皆などで本物の衣装を着て、録画に臨んだ時のものです。

「大切な人を守りたい」防衛省陸上自衛隊の幹部候補生に

仙台大学体育学部を卒業した男子学生

初めに、4年間御支援してくださり、私の成長を見守ってくださった、読売光と愛の事業団の方々、そして御支援して下さった全ての支援者様にこの場を借りて心より感謝申し上げます。本当に有難う御座いました。

4年間の学生生活を振り返り、私は、この4年間で本当に多くのことを学ぶことができ、今までの学校生活の中で、一番充実していたといっても過言ではありません。本当に、大学で学べたことを感謝しています。この文章を書くにあたり、この4年間のことを振り返って、なぜこんなに充実していたのかを考えましたが、それは、学びに対する姿勢と考え方の変化だと思いました。高校までは、先生の授業を受けたり、参考書の問題を解いたり、暗記をするだけの受身の姿勢であったのが、大学では自分なりに考えて、知りたいと思ったことを深く知ることができ、自分が望めばいくらでも道を開くことができます。悪く言えば、意欲的に動かなければ、そこまでの知識や経験で終わってしまいます。私は、この4年間で考えることや学びに対して随分と貪欲になれたと感じており、勉学のみならず、陸上競技部での取り組みや活動なども自分の成長に大きく繋がっていると実感しています。4年という期間はとても短いですが、これから先の基礎を作ることができた貴重な時間であったと感じています。ここで学んだことを心に留めて、これから先も頑張りたいと思っています。

中高保健体育科の教員になる為、4年間、真摯に教員に求められる資質や能力を育成するカリキュラムを受け、専門的な知識と技能を身に付けることができました。11月、12月と中学校での教育実習を経て、生徒と寄り添う中で見えてくる教師としての視点があることを感じる事ができ、私にとって貴重な実習となりました。また、無事に中高保健体育科の教員免許の取得をすることができ、安



堵しております。

今後の進路についてですが、防衛省陸上自衛隊幹部候補生として合格することができ、約10ヶ月間、福岡県久留米市にある幹部候補生学校にて国防に関する勉学、幹部自衛官としてのリーダー力の養成などの教育を受け、卒業後は全国の部隊で指揮する立場で任務に遂行していきます。東日本大震災から早くも10年が経ち、沿岸部では、道路の再整備や高台の建設など着々と復興している状況です。10年前、東日本大震災が発生し、沢山の被害に遭い、全国から10万人もの陸上自衛隊の方々が被災地に駆けつけ、真摯に瓦礫の撤去作業や食料物資の提供をしてくださったこと、私の目に今もしっかりと焼き付いており、自衛隊の隊員として、何か災害や有事があった際に、私にとって大切な人、家族、そして日本に住んでいる全ての国民を守りたい、助けたいと強い意志があり、自衛官としての道に進むことにしました。日本の平和、世界の平和がこれからも続きますよう、しっかりと任務に遂行していきたいと思っております。

最後に、私の大学生活を4年間支えてくださった読売光と愛の事業団様、そして長きに渡り御支援してくださった皆様、私を全面的に御支援してくださった全ての皆様に、心より感謝申し上げます。